



西側の上空より建物を見る。北側の住宅地に配慮し、傾斜する地形を反映した群造となっている。



オーデイオテクニカ本社

review

選評

東京郊外の住宅地が広がる緩やかな丘陵地に建てられた国際的オーディオ機器メーカーの本社ビルである。創業地であるこの敷地に、これまで断続的に建設されてきた諸施設を全面的に建て替え、分散していた本社機能・マーケティング企画の事務管理部門と技術開発部門をひとつの建物に集約し、スピーディでイノベティブなものづくり環境の創出を目指した複合施設である。敷地は南の幹線道路から北に緩やかに三層程度の上り勾配となっている奥行約九〇メートルの不整形な地形である。敷地の南北軸に沿い、敷地勾配と逆勾配の片流れ大屋根を戴く事務・研究部門の複合施設である本館棟を中央に、西側には本館棟とは逆勾配で呼応する食堂棟、東側には機械車

庫棟という三棟構成となっている。

本館棟は、南側の事務管理部門と北側の研究開発部門を、ふたつの光庭を挟み敷地勾配を活かしたスキップ断面構成としている。それぞれの部門はエレベータ、階段・スロープを一体化したふたつの光庭中央のブリッジコアにより繋がっているが、光庭を通した視覚的なコミュニケーションも可能となっている。事務管理ゾーン南面は眺望と開放感確保のためブラインドを設置していないが、日射遮蔽と負荷低減を図る多機能フィルターが設置され、建築計画と一体になった自然通風の確保と合わせZEB Ready(五〇%以上の省エネルギーを実現)相当の環境性能を確保している。

外観はトップライトを有する片流れ大屋根のスカイラインにより特徴的なフォルムを構成している。南北面は開放的なガラススクリーン、東西面は閉じたコアウォールとしながらも、垣間見える光庭や「ギル」と称する三角出窓と採光のための細い横スリットにより彫塑的な外観となっている。この特徴的な建物形態を実現するために、目の字型の剛接架構により大屋根を構成し、エキスパンションジョイントを設けない構造計画としている。また、外装デザインの自由度を高め、設備計画の制限をできる限り小さくするために、建物全周を二〜一メートル跳出し架構とし構造上



最上階となる5階のルーフガーデン

《2019年 第60回 BCS賞受賞作品》愛知県立愛知総合工科高等学校／赤坂インターシティAIR(赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業)／OIST 沖縄科学技術大学院大学 フェイズ1／太田市民会館／**オーデイオテクニカ本社**／GINZA SIX／新発田市新庁舎／新山口駅北口駅前広場「O番線」・南北自由通路／東京ガーデンテラス紀尾井町／東京ミッドタウン日比谷／富山県美術館／ナセBA(市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー)／HIRAKATA T-SITE／フェスティバルシティ(中之島フェスティバルタワー(東地区)、中之島フェスティバルタワー・ウエスト(西地区))／立命館大学大隈いはらきキャンパス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2019年で60回を数えました。



建築主より

Message from Client

株式会社オーディオテクニカ
取締役 管理部ゼネラルマネージャー

小柳益男 Masuo Oyanagi

マーケティング、企画、開発、検証が集約されスピーディな開発環境を実現

この本社新社屋は、創業57年の歴史を継承し、音響専門メーカーとしての文化を感じさせる社屋となったものと思います。竣工後は、重要な海外顧客を多く迎えるなど、文字どおり「ATグループのHQ」「ブランドイメージ発信の場」となりました。執務フロアはフリーアドレスの導入に成功し、場にとらわれない働き方を実現しました。本社以外のグループ会社にも順次展開しており、新社屋建築が働き方改革の契機となりました。

当社と設計者との関わりは20年以上におよび、経営者と従業員の強い想いを期待以上に反映していただきました。建物以外でも、家具作図、調度品レイアウト、植栽デザインなど、すべてにおいて深く関わっていただきました。また、高難度の設計を具現化し得た施工者の卓越した技術力と尽力にも感謝いたします。



設計者より

Message from Architect

早稲田大学
教授

赤坂喜顕 Yoshiaki Akasaka

一回性の建築を目指して

オーディオテクニカ本社は、この企業の創業地である東京近郊の緩やかな丘陵地^{フレット}に建てられています。街並みのスケールと地形に応答したここでしか成立しない建築の“形”^{フォルム}を求めて、敷地固有の傾斜がデザインのモチーフとなりました。これを建築的なCI表現のためのデザインコンセプトとして組み直し、外部の形態構成から内部の空間構成やディテールまで徹底的に展開することでランドスケープに潜む地勢の“音”^{サウンド}的な可視化が造形のテーマとなりました。最終的な“形”は、本社機能である管理部門と研究部門を共に文節かつ連結する、集中と交流の空間効果のための視覚性に加えて、光や熱の自然エネルギーの環境性も考慮に入れて決定されました。その時代に、その敷地に、その建築主によってしか建てられない一回性の建築を目指しました。



施工者より

Message from Builder

株式会社竹中工務店
横浜支店 作業所長

坂本勤 Tsutomu Sakamoto

関係者が一丸となったものの創りで「建築主の想い」を創出

オーディオテクニカ創立50周年記念事業に対する建築主、赤坂教授の「熱い想い」を共有し、施工者として携われたことに感謝いたします。この建物は非常に複雑な形状の外装を有し、技術エリアにおいては高い要求性能が求められました。建築主・設計者・施工者が三位一体となり、「安全・品質・性能に妥協しない」を合言葉にもの創りに邁進しました。

もの創りを全面的にサポートしていただいた協力的会社並びに職方に深く感謝いたします。また、この難易度の高いプロジェクトに関係者がベクトルをひとつにして、全工期無事故無災害を達成し、BCS賞を受賞できたことはこの上ない喜びです。今後もこの賞を糧に、技術者としてさらに磨きをかけ、技術を伝承し、もの創りに精進する所存です。



1



2



3



4

1. 視線と環境の制御に配慮した南面のファサード
2. 片流れ大屋根と呼応した大空間の技術執務室
3. 本館の西側に配置した自然光が差し込む食堂棟
4. スピーディな製品開発を実現する無響室

オーディオテクニカ本社 計画概要

- 建築主 (株)オーディオテクニカ
- 設計者 早稲田大学赤坂喜顕研究室
(株)竹中工務店
- 施工者 (株)竹中工務店
- 所在地 東京都町田市西成瀬2-46-1
- 竣工日 2016年1月6日

- 敷地面積 5,327㎡
- 建築面積 2,719㎡
- 延床面積 6,838㎡

- 階数 地上5階
- 構造 鉄骨造

の制限を極力少なくする工夫もなされている。
形状が複雑で高精度・高品質を要求される各
部位・ディテールに対し、実施設計段階よりフロ
ントローディングによる施工部隊の参画と、B I
M活用による各処納まりの検討を実施してい
る。杉板本実コンクリート壁をはじめ徹底したP
C化を図り、工期遵守に向けた生産性向上と品
質の確保を目指している。
世界へ向けて「音」のブランドイメージを発信
し、「分散していた諸部門を集約し、社員間の交
流によるイノベータータイプな環境を創出できる新
本社を」という経営者の強い思いと、その要望に
見事に応え実現させた設計者・施工者のレベルの
高い取り組み、そして竣工後の新本社に対する
誇り・愛着を持った維持管理・運営はBCS賞
に相応しい作品といえよう。

「選考委員」 竹内徹・川島克也・栗山茂樹